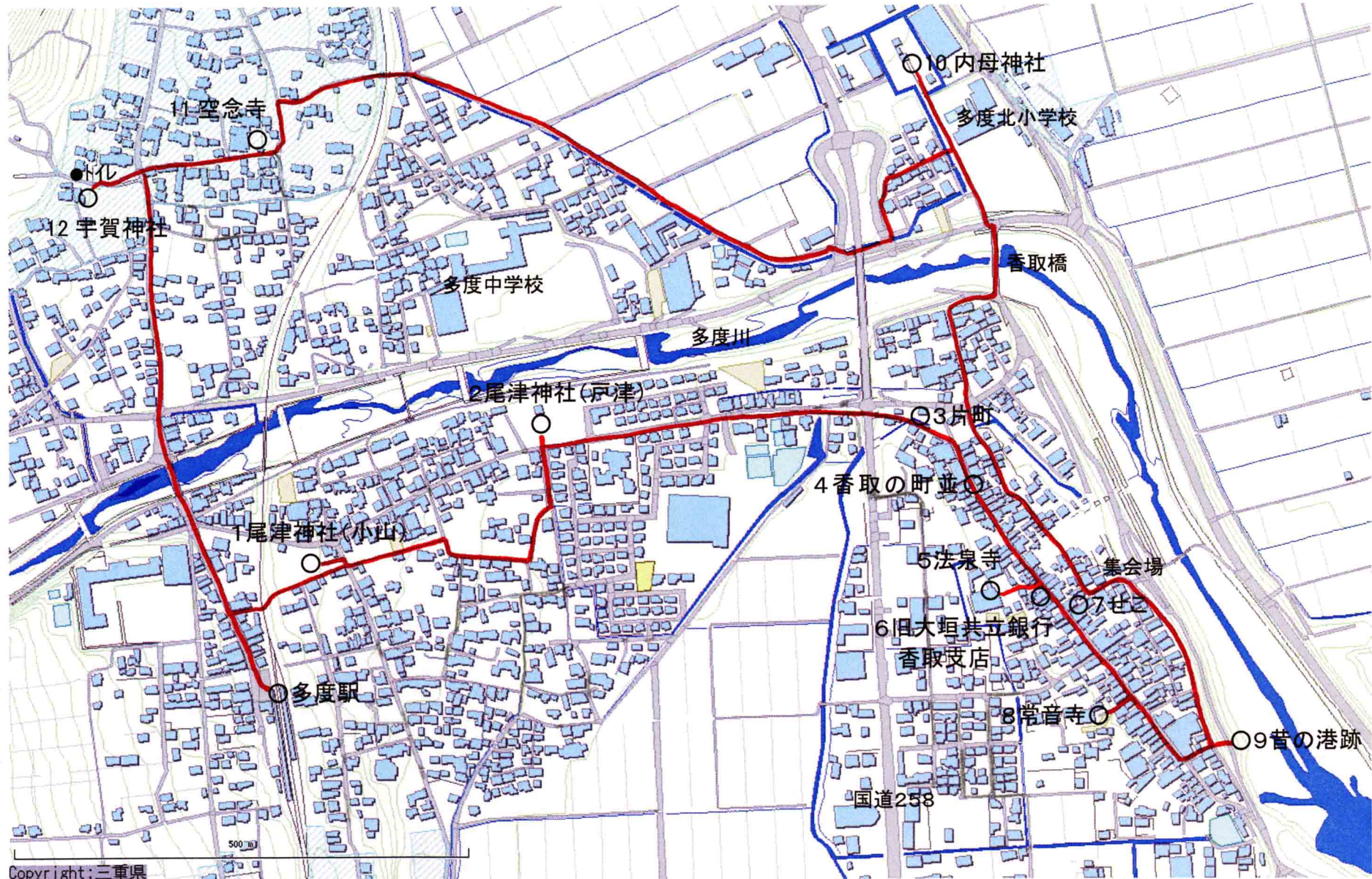


むかしの港町香取を訪ねる (全行程約4km)





1. 尾津神社(小山)

2. 尾津神社(戸津)

多度地区には尾津神社はこの2社のほか御衣野の尾津神社(草薙神社)を含め3社ある。尾津神社は式内社として2社記載されているが、この3社のうちのどこかは定かでない。

日本武尊が東征し、尾津崎に立ち寄った折、松の木に剣をかけてそのまま置き忘れ出発した。帰路、再びこの地に立寄ると、松の木にかけた剣がそのまま残っていることに感激し歌を詠んだ地といわれる。(古事記)



3. 片町(かたまち)

香取の北の入口。北側にらいけ川が流れているため南側のみ家が建ち並んでいたのが片町と呼ばれていた。



4. 香取の町並み

香取の町は江戸時代から戦前にかけて港町(川港)として繁栄した。香取市と呼ばれる朝市は江戸時代中期から行なわれており、後に四と九の日に開かれる「四九市」(しくのいち)と呼ばれた。町並みは150戸余が軒を並べ、うち80~100戸が屋号を持っていた。造り酒屋、醤油製造小売、銀行、銭湯、宿屋、料理屋、材木屋など色々な店屋が存在した。この地方唯一の娯楽場であった演芸場の香取座(定員約300人、昭和17年閉鎖)もあった。



5. 法泉寺

真宗大谷派。親鸞聖人の弟子信慶が開基。その後、長島の杉江、桑名の三崎、多度の香取の三箇所では法泉寺が建立されたが、1600年前後に三崎法泉寺を本山に寄付し、杉江法泉寺を香取法泉寺に統合した。江戸時代には幕府より朱印地100石が認められていた。桑名藩主からも庇護を受け御衣野山を黒印地として拝領した。江戸時代を通じて本地域の本願寺系の中本寺であった。



6. 旧大垣共立銀行香取支店

明治34年5月七拾六銀行香取支店として建設された。昭和3年大垣共立銀行と合併し大垣共立銀行香取支店となる。その後、銀行としては多度小山に移転。建物は昭和39年に売却された。



7. せこ

町なかの本通りから裏道へ通ずる狭い小路。七条あって香取の「七せこ」といわれた。本通りと裏道の間の中道といわれる小路も設けられた。





8. 常音寺

真宗大谷派。応永11年(1404)自空が開基。元は時宗であったが、戦後に真宗に改宗。宝暦治水の薩摩義士5人を祀る。そのお墓は市指定史跡になっている。また、平成19年に再建された本堂には治水工事全犠牲者の大きな位牌が安置されている。

入口にある地藏堂は、像の基台銘に寛政6年とあり、同年に堂も建立されたといわれている。



9. 昔の港跡

昭和の初めまでは集会場裏あたりまで船が入った。香取の「七せこ、八河岸」といわれ、材木や各地からの商品を8箇所まで上げ下ろしされたといわれる。港から多度川右岸に沿って船が繋がれていた地域一帯は船渡場(せんとば)と呼ばれていた。



10. 内母(ないも)神社

旧社格は村社。明治30年頃までは上之郷に鎮座していたが、木曾三川改修工事で、明治45年、現在地の姥江へ移転した。同時に各地の13社から合祀された。秋の祭礼(毎年10月の第1金曜日から3日間)には5地区から祭車を出し鉦と太鼓をはやしながら曳きまわす石取祭が行なわれる。多度川から取った栗石が神前に奉納される。



11. 空念寺

真宗大谷派。元来は天台宗の聖徳山空然寺として多度山中にあったという伝承を持つ。山中より当地に下りて後、浄土真宗に改宗して現在に続く。本堂余間に蓮如上人の木像を奉安する。また、外陣狭間には中国の二十四孝(24の孝行話)の故事を題材にした装飾彫刻(江戸時代)を掲げる。



12. 宇賀神社

元々は有力者を祀っていたが、後に農耕神として宇迦之御魂神を祀るようになったと言われている。式内社。一般に「シイの宮さん」と呼ばれ、シイの巨木群がある。「宇賀神社シイの森」は市指定天然記念物。境内には3基の古墳がある。